

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 15 回 外的事象 PRA 分科会 議事録

1. 日 時 2019 年 5 月 17 日 (金) 13 : 30~16:00

2. 場 所 電中研大手町 711 会議室

3. 出席者 (敬称略)

【出席委員 : 16 名】糸井主査 (東大), 桐本幹事 (電中研), 内山 (大成建設)、織田委員 (日立 GE), 倉沢委員 (中部電), 黒岩委員 (MHI-NS エンジ), 佐々木委員 (関電), 安達委員 (テプシス), 佐藤委員 (東芝 ES), 中島委員 (電中研)、泥谷委員 (NEL), 美原委員 (鹿島), 橋本委員 (電中研), 山野委員 (JAEA), 吉田委員 (大林組)、綿引委員 (東電 HD)

【欠席委員 : 1 名】栗田委員 (東電設計)

【出席常時参加者 : 3 名】成宮 (JANSI)、小原 (関電)

【欠席常時参加者 : 2 名】出井 (規制庁)、根岸 (原電エンジニアリング)

【出席説明者 : 1 名】酒井 (電中研)

4. 配布資料

RK6SC 15-1 第 14 回外的事象 PRA 分科会議事録 (案)

RK6SC 15-2 人事について

RK6SC 15-3-1 地震 PRA 標準 2015 英訳コメント対応

RK6SC 15-3-2 地震 PRA 標準 2015 英訳版 (回覧・メール配布のみ)

RK6SC 15-4 地震 PRA 標準 2015 英訳の今後の進め方

RK6SC 15-5-1 断層変位 PRA 実施基準の標準委員会 【中間報告】

RK6SC 15-5-2 断層変位 PRA 実施基準 中間報告 添付資料

RK6SC 15-5-3 断層変位 PRA 実施基準 (回覧・メール配布のみ)

RK6SC 15-6 学協会規格ピアレビュー試行計画書

5. 議事内容

(1) 定足数の確認

会議に先立ち、委員 16 名が出席しており、定足数を満たしていることが確認された。説明者として酒井氏の出席が確認された。

(2) 前回議事録の確認(RK6SC15-1)

桐本幹事から、前回議事録の内容について説明がなされた。出席者の修正が行われた。また、4P の断層変位 PRA の作成方針について「例示については本体から消す方向」というのは、「教科書的な例示は本体から消す方向」に修正すること。ただし重要なのは、転載内

容や例示の記載についても理解に必要なものであれば残すべきであるという視点で整理することであることが指摘された。

(3) 人事について(RK6SC15-2)

桐本幹事から、人事について説明があり、承認された。

○地震 PRA 作業会

(1) 常時参加者 登録【報告】(1名)

新崎 聡司 (原子力エンジニアリング)

(4) 地震 PRA 標準 2015 英訳コメント対応、進め方について (RK6SC15-3、4)

地震 PRA 作業会幹事である成宮常時参加者より、地震 PRA 標準 2015 の英訳のコメント対応状況、英訳版作成の経緯と今後の進め方について説明があった。以下の議論があった。

- ・ You Can 等で始まる箇所が 13 箇所あるので、受動態になるように見直す。
- ・ 英訳版は、リスク専門部会から標準委員会への説明として経緯などを説明する予定であるため、A3 2 ページ程度の説明資料の作成については必要性は後で議論する。
- ・ 今の地震 PRA 基準に教科書的な記述が多いかということが見えるが、今後の標準としてはそのようなものは地震 PRA 標準の次回改定からは削除していくことを議論し作業している。英語版については、今回はこのままとする。
- ・ 英訳のすすめ方については、附属書は概要で記載していく案 3 で進められることが説明されたが、概要は序文的な内容をまとめていく。ただし時間的には作業は難しいので、テンプレートを作って進めていくことなどが議論された。
- ・ 資料はメールで今後も共有していくこととする。

(5) 断層変位 PRA 標準の中間報告に向けた議論について (RK6SC15-5-1、2、3) 1:30

断層変位 PRA 作業会の酒井氏より、中間報告に向けた意見対応等の状況について説明があった。

- ・ 地震 PRA との切り分けについて等の記載の確認が行われた。
- ・ TI,TFI、PRA 実施者の責任範囲の記載については PRA 品質確保の記載を確認して整合性を確認することとした。
- ・ 作業会でも議論された修正部の未対応についての確認があった。
- ・ リスク専門部会での報告としては中間報告(案)とし、(案)を取らせていただくという報告する。また、専門部会からのコメント対応の資料については標準委員会では報告の時間がないが、議論経緯のエビデンスとして重要であるため添付という形で 2 Up 等の資料で配布をする。
- ・ 「想定外を出来る限り無くす」という記載に違和感がある。従来の決定論から非常に低いリスクも扱うという説明がないとわかりにくい。これについては解説にも説

明の記載があるので、A3 説明資料にも反映する。

- ・ 制定については委員会のマターであるので、「5 年計画に従って」という記述は「制定を目指す」という記載に改める。

以上のコメント等を反映して、リスク専門部会に報告することが了承された。

(6) 学協会規格ピアレビュー試行計画について (RK6SC15-6)

桐本幹事より、学協会規格ピアレビュー試行計画書について説明があった。試評価の対象として津波 PRA 標準が選ばれ、審議過程などが電気協会や機会学会の委員よりレビューされることが報告された。この際、事務局だけではなく、専門部会、分科会や作業会側での技術資料や議事録提出の準備などが必要となりそうであること等が説明された。

- ・ レビューの「対象組織」は専門部会が位置づけられ、標準委員会が回答するとの理解。

(7) 次回日程, その他

- ・ 次回分科会は 8/12 (金) 13:30～16:30 電中研大手町 734 会議室で開催することとなった。

以上